

名東福祉大学校教養講座 第5日目

1月11日 名東文化小劇場

1時限 「好奇心が元気の秘訣」

まほろば 遊 (元宝塚歌劇団)

館内に「すみれの花咲く頃」が流れ、颯爽と黒と赤のロングドレスで歌いながら登場。宝塚劇場を彷彿とさせる演出に皆、息を呑む。

そして、拍手、拍手。舞台の画面が変わり、今度は講演調になる。宝塚音楽学校に入学。ところが、足の手術。日本舞踊やダンスなどの勉強が出来ない。それなら歌で一番になろうと猛勉強。お蔭で、「ベルサイユのばら」でデビュー。ニューヨーク公演が一番の思い出。7年目に独立。



ところが、男役の歌声が災いしてミュージカルなどの仕事に呼ばれない。男役の声はこんななんですと、「愛あればこそ」で披露。確かに宝塚特有の発声法だ。

声乐を一から学び直すことにし、その時「呼吸法」を知り、健康にも大いに役立ち、現在、その教室を開いている。その一部を紹介。会場の全員がリンパマッサージや腹式呼吸法を学んだ。30歳で名古屋に。ところが、甲状腺がんに罹る。せめて子供だけには母親の声をと CD を作成。それを披露。色々な福祉活動をしたので手術しないことに決めたが、お蔭様でこの5年間元気で活動中。



ここで、余興あり。スイトピークラブ(社会部員)への振り付けレッスン。何とその中に着物姿の西川長秀先生のサプライズ登場。締め言葉として、「歌うとストレスは解消。好奇心で心は

元気。」を頂きました。最後に「川の流れるように」を全員で歌う。歌と講演のバランスが良く素晴らしい楽しい講座であった。

2時限 「今どきの子供の居場所づくり」

寺田 太郎 (名古屋市立猪高中学校 校長)

1時限が華やかで、講演がやりづらいつらいと思いきや、壇上から客席にも降りたりの熱演でした。

自己紹介で、カヌー、キャンプ、自転車旅行、行動派の先生であるのが分かります。

テレビ塔撤去の危機の時、生徒に「テレビ塔再生プラン」のテーマで案を出してもらったところ、レストランなど現在ある姿と全く同じであった思い出があります。中川運河での生徒の手作りカヌー、学校で気球を上げたりもしました。今日のお話は「名古屋市子ども適応相談センター」に居た時のことです。



不登校(年間30日以上)は全国で約25万人います。コロナとは関係なく増え続けています。小学1年で既に5%、そして中学入学時に増加します。不登校の原因、理由は様々です。登校を勧めるのではなく、社会的自立(その子の最善の利益)の支援を行うことを目標としています。

保護者や本人から話を聞くことから始まりますが、プロは決して自分の意見を挟まず、理解できるまで何遍も、何時間も聞くことに専念します。



実は、自分自身の中では、自分の経験から、既に結論や指導を決めてしまっていることがあるからです。

それが、邪魔をするのです。これを知るための例題やテストをされ、40分の講演が終了しました。聞くことの大切さと難しさを勉強した有意義な講演でした。

1,2時限とも 加藤 誓

編集後記

まだ寒い日が続く早く春が来てほしいですね。昨年、大病をし、まさかの二ヶ月間もの入院生活を余儀なくされました。手術の後のリハビリがとてつらく、退院後もなかなか体力が元に戻らず、今年になってやっと皆様とお話できるようになりました。

2週間の手術前検査があり、手術も、大手術で、朝から夜までかかり、目を覚ました時は、翌日の昼でした。部屋に戻ってから、主治医から「手術は成功です」と告げていただいたときは、正直ほっとしました。術後も毎日主治医と治療チームの方々の回診がありました。病室は、4人部屋で、同室の方々もとても親切で、お友達もできました。

今心から思います、「皆さん、健康診断は、年に一回は必ず受けてくださいね」と。 森 里美



令和5年2月23日 175号

発行者 名東区なごやかクラブ連合会

名東区上社二丁目50番地

電話 052-778-3099

http://kurouren.chu.jp/

令和4年度 「趣味の作品展」開催報告

開催日 令和4年12月21日(水)~23日(金)

場所 名東区役所2F 講堂

色々な行事の中でも特に、大勢の人の協力が必要なのが「趣味の作品展」であります。文化部員は勿論、理事の方、女性代表者会の皆様の設営と運営、そして単位クラブ会長さんを始め作品出品者の皆様とそれを取りまとめる方、作品運搬の方、裏方の区役所や事務局の方など本当に多くの方のお蔭で開催することが出来ました。



21日9時、講堂を開け、そして会場を見渡した時、その方達が関わった「多くの時間を費やした準備や行動の成果」をひしひしと感ずることが出来ました。これで、成功！あとは、観覧者が多く来て頂ければ！と。

受付係二人も着席、壁にはクリスマスや正月のパネル板のイラスト、女性代表者お世話のコーヒーの薫り、会場にはBGM、そして出品者212人、作品数532(前回の5割増)の素晴らしい作品群が「いらっしやいませ！」と並び、準備万端整いました。

心配した観覧者の足は好調でした。1日目185名、2日目159名、3日目195名、合計539名で予想を上回りました。区長さん始め区役所の方や、寒い中、名東区以外の方にも観て頂きました。開催3日間を通じ会場の中は、熱心に時間を掛けた観覧と、喫茶サービスの効果か会話も弾んでいたように思います。「良いお年を・・・！」のご挨拶もあちこちで聞こえ、無事終えることが出来ました。ご協力頂いた多くの方々、ご観覧頂いた皆様にご挨拶を申し上げます。

文化部長 加藤 誓(ちかい)



西山学区 加藤智津子  
日本画「我が家のミソ」

この絵の猫、ミソは、隣の人が引っ越しされた時に頂き、10年ほど飼っていた雄猫です。

絵を描くことは好きで、油絵、墨画、と渡り歩き、現在は日本画をやっています。

昭和30年に結婚した主人が習字を教えていたこともあり、私が趣味の絵を続けることに理解がありました。そのお蔭で、昭和38年に主人が単身赴任で鎌倉に行った後、舅と子供二人と百姓をやり、昭和53年に舅が亡くなって主人が戻ってくるまでの15年間、長い年月でしたがこの間も絵を描くことは続けました。

62歳の時、友達の誘いで日本画を習い始め、今は87歳になりましたが、年に一、二回友達とスケッチ旅行に行くのが一番の楽しみです。

一人暮らしとなった今も、毎日楽しく筆を持って、「絵を継続してよかった」と思っています。



名東学区 津田きみ子  
手芸 「羽子板」



趣味の作品メイト  
P1~6 紙上展 令和4年度  
メイト紙上展は、右のアプリから  
スマホでも見る事が出来ます。



高針学区 新美 修

### 南禅寺三門制作裏話



寺院建築物の模型作りの動機は、名古屋博物館ロビーの五重塔の模型を見たことからです。模型でも現物と同じようなスケール感と迫りに強い感銘を受け、自分も作ってみたいとなりました。それまで寺院建築の機会がなく、模型でも良いからと思い立ち、暇を見つけて作成に取り掛かりました。

早速、資料探し。古建築の本には、「解体修理記録より」と記されていたので、図書館で五重塔のそれらの資料を探し、無い時は他の図書館から取り寄せたりしました。現地調査を数回行い制作の準備をしました。

法隆寺、醍醐寺、瑠璃光寺(全て国宝)を観てなぜ感じ方が異なるかを考えました。建っている場所にも影響されますが、すらりと高く見せたり、どっしり見せたりするのが、通減率(地上階と最上階の幅の比)であり、どの塔もそのバランスに気を付けているのが分かりました。平地に建っている理想的なプロポーションは0.6位ですが、法隆寺は約0.5、醍醐寺は0.6で、瑠璃光寺は0.7でした。さて、五重塔三体も完成し一息入れ次に何に挑戦しようか考えました。

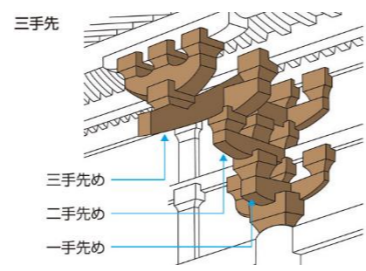
お寺に入る最初のモニュメントは門であり、それは、そのお寺の規模を示す重要な建造物です。日本の三大門は京都の南禅寺、知恩院、山梨の久遠寺ですが、一番有名な南禅寺三門を制作することにしました。

愛知県図書館の方が全国の図書館に問い合わせ、南禅寺三門の解体修理の記録を手に入れることが出来ました。塔と違い幅広のため、家の出入り口を考慮し、縮尺1/30の大きさにしました。図面は寸方で記録されているので、1尺が1cm、1寸が1mmとなり、計算し易いためでもありました。

三門(山門とも言う)とは、仏道修行で悟りに至るための空・夢相・無作の三解脱門の略称であり、建築様式は伝統的な禅宗様(ぜんしゅうよう)で造られています。先ずは、物見遊山ですが、現地調査。間近で見る門のスケールに圧倒され、また、軒廻りの繊細さに感嘆。これを模型で表現できるか、腕試し。全て現物と違わない寸法工法を守り、1年半余りで完成することが出来ました。この模型の制作に当たっては

- ①立地条件による圧倒的なスケール感
- ②軒の曲線、木の枝(わざ)、組物(三手先斗拱)
- ③細部にわたるリズム感
- ④建物に込められた祈りの4項目に注力しました。

余談ですが、歌舞伎「楼門五三桐」で石川五右衛門が「絶景かな、絶景かな」の舞台はこの山門と言われているが、実際の三門は五右衛門の死後30年以上経った寛永5年(1628年)の建築であり五右衛門は登ってはいないはず。造り終わって今考えるに、少しですが、建築に携わった人々の気持ちに近づけたかなと自負の念を抱いています。



香流学区 森橋三枝

### 「押絵 干支:卯」

この作品は、大阪千里ニュータウンに居た時の作品です。当時は60歳台後半で高齢者へのボランティアでも活動していて、とても多忙な時期でした。多くの友人にも恵まれ、絵画、書、手芸、押絵など作品作りに励んでいました。

今回、出品した『卯』は、友人から先生を紹介され教わりながら作成したものです。押絵を作り出すと結構面白くなり、多くの作品を作りました。その中の干支のシリーズに挑戦したひとつで、自分でも気に入っている作品です。こちらに来て十数年になりますが、会長さんからの依頼を受け、出品したものです。コロナ禍のなか開催して頂き、ありがとうございました。



### 健康作り講演会 1月27日 名東文化小劇場 心の癒しハートフルコンサート

1月27日(金)14時より 名東文化小劇場にて「心の癒しハートフルコンサート」を開催致しました。コロナの影響で2年越しの開催で念願のコンサートとなりました。当日は、小雪がちらつく寒い日となり、入場者の出足も心配しましたが、180名の入場がありほっと致しました、寒い中での来場誠に有難うございました。



健康福祉部としては、従来の健康づくり講演会から、今コロナ禍で世の中暗いイメージの中素敵な音楽に触れることで、会員の皆様の健康や心のストレスを払拭し、癒す事は出来ないか? 明るさを取り戻す事が出来ないか? こんな発想からのスタートでした。



その時ひらめいたのは「名古屋二期会アンサンブル研究会」の皆様が出演しておられる「歌の玉手箱コンサート」を拝見した事。伏見しらかわホールでの公演を体験した事がヒントになりました。

オペラは、外国語で難しいのに「歌の玉手箱コンサート」は、昔懐かしい童謡、唱歌今流行の歌謡曲と非常に楽しい舞台に触れた事で「これだ、これでいこう」の感触を得た次第です。日頃は、「名古屋二期会オペラ」にも出演され、音楽学校の講師、ピアノの先生、音楽教室の先生でもある方々の素敵な歌声を、面白く、おかしくそして楽しく聞かせて頂ける機会を作ろうと思いました。

早速まずは、「名古屋二期会アンサンブル研究会」リーダー橋爪圭子先生(写真左、白ドレス)との交渉事からスタートし、私共の趣旨を理解いただき承諾をいただきました。『クラシック音楽の垣根を取り払い、皆様と音楽を楽しむ時間』とする主旨で、童謡、唱歌から今の流行り歌、時代を飾った懐かしいヒット曲、日本歌等コンサートとする企画といたしました。「心の癒しハートフルコンサート」は、外は寒く会場は熱く盛り上がり、時間の経過が早く感じました。日本歌曲からオペラ&ミュージカル、懐かしの歌謡メドレーそしてアンコール曲「翼をください」の全員合唱でコンサートの終了となりました。面白くもあり楽しく笑いもあふれた素敵な歌声にとっても感動のひと時でした。客席からは「ブラボー」の掛け声がありました。

健康福祉部長 加藤 守



名東区健康づくり講演会に参加。あいにくの氷雨降る底冷えの午後...やめようかなと迷いつつ思い切って出かけ、時間ギリギリに会場へ入ったら思いがけずかなりの観客数！行ってよかったです。まさしく「心の癒し」ハートフル・コンサートでした。白一色の舞台に黒いグランドピアノが一台のみという簡素な舞台装置も素晴らしく名古屋二期会アンサンブルによる耳に馴染みの歌曲が次々と披露されすっかり心の健康づくりになりました。めったに聞くことのない生のピアノや声楽の演奏は心地よいものでした。

鷹羽朝子



北一社学区 柵木弘光・伊都子  
「水墨画」と「書道」のコラボを楽しむ

私は三河の矢作川の畔で生まれました。大学卒業後、就職、結婚と11年間の東京生活をして、転勤で愛知に戻り、両親を見送り、定年を迎えました。

定年後の第二の勤めで時間の余裕が出来たことから、「詩吟」を始め、もう30年近くになります。

第二の勤めを終えたら72歳になっており、またなにか新しいことにチャレンジしたいと思っていたところに、「水墨画」に出会い、始めましたがなかなか奥が深く、熱中して現在に至っております。中国へも詩吟の仲間と出かけ、李白や杜甫の歩いた所や、三国志の舞台を見てきました。この時の風景を思い浮かべながら、84歳の今、漢詩や水墨に取り組んでおります。

妻は、17年前に大病を患い、そのリハビリにと娘に勧められて、北一社コミセンで「書道」を始めて今も続けており、師範にまでなりました。

最近では、私の描いた水墨に、妻が漢詩や和歌を書くコラボ作品をやっております。即ち、「詩吟」と「水墨画」と「書道」が融和したものです。皆さんも七十歳の手習いに始められては如何ですか？楽しみと生き甲斐となると思っています。

趣味の作品メイト  
P1~6 紙上展 令和4年度

メイト紙上展は、右のアプリからスマホでも見ることが出来ます。

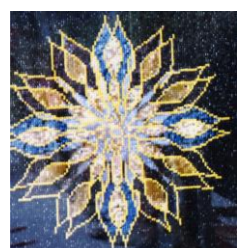
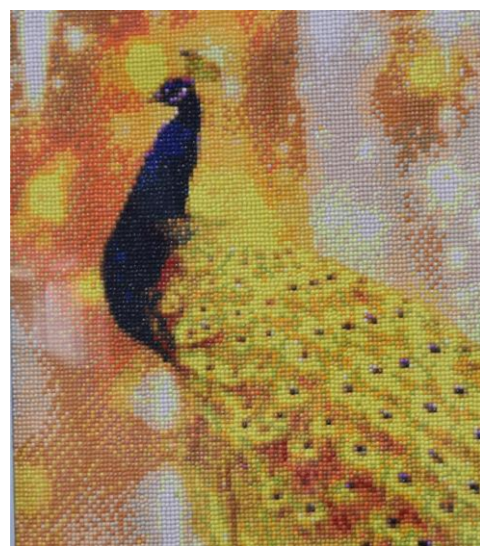


猪高学区 山口美弥子  
皆で楽しく「新聞活用のちぎり絵」

作品展には”皆で出したい”との思いで月一度の集まりに季節の折り紙等をしながら話し合っていた時会長の本林さんから「新聞紙でのちぎり絵をやってみない？準備等は手伝えるよ！」と言って戴きました。元の下絵の書かれたはがき等を用意して下さり作り方の書いてある本やチラシを見ながらどうすれば良いのかも分からないまま始めました。

まず新聞紙上の色探し、なかなかうまくちぎれない事などなど悪戦苦闘？でもだんだんと楽しくなってきました。同じ絵なのに作る人で全然違う雰囲気となり「性格が出るわね」と笑いあい面白さもわかってきました。制作はほとんど各自家で作業でしたが自分で絵も描いても見ました。新聞紙で作るバラの花を教えあつたりと新聞紙の凄さも感じました。

提出前各自 2枚と決めて台紙に貼っていくと「下手だから」「恥ずかしいから」と言っていたのが皆素敵に見え大満足！やっぱり皆で一緒に出品できたことは大きな喜びでした。これからの“猪高なごやかクラブ”次回も皆と一緒に楽しみ喜べるものを作れたらと思っています。



北一社学区 後藤恵子

ダイヤモンド・ビーズ貼り絵

ネット通販で見つけた「ダイヤモンド・ビーズ貼り絵」の魅力は、何といても多面カットされたビーズの輝きです。指定通りの位置に、色や形の違ったビーズを接着剤が塗ってあるキャンバスに貼っていくだけで、出来上がるときらきら光り、想像以上にきれいです。簡単な図柄から画面全部をビーズで埋める作品など、根気が要求されるものなど、多種多様にあります。

コロナ禍で、外出を控えている時期に、それぞれの家で楽しめる趣味を見つけ皆さんに声掛けをして沢山の作品が出来ました。仲間の写真もご覧ください。

根気には自信があるという方は、ぜひお試しください。スマホ・パソコンで「ダイヤモンド・ビーズ」を検索して、取り寄せお楽しみください。

藤が丘学区 井上 勇

趣味の作品展 「バラ」

A. 題名について

私の出品作品「BARA」の題名について、加藤 誓さんが逢うなり「BARA」は英語の「ローズ」じゃないのか？何故 BARA 何ですか？」と変な質問を受けましたが、「バラ」でないと「ローズ」じゃ受ける響きが弱いのです。この絵の「私のバラ」は喜びや感謝に満ち溢れた「バラ」なのです。

加藤登紀子さんの「百万本のバラ」をローズにしますか？

B. 動機について

恒例の中部二科展に出品した作品名「談合120号」が入選し、小さな賞を頂いた折に、美しい同人の女性 A さんから打ち上げ披露パーティ(中日ビル8F)で、ラッピングされた豪華なバラの花束を胸いっぱい頂いた。

慣れないことで喜びに震えました。

帰途4~5名の友と二次会を約束し、家族のいる家に。娘が早速バラを活け再び花を囲んで家族で祝杯を挙げ歓談尽きなく、跡は記憶にない。

翌朝、卓上のバラは鮮やかに勢いを取り戻し晩秋特有の朝の涼しい光をいっぱい受け輝いていた。

こいつは、描かずにおくべきか。後は、一気に描き上げた。

この一品は本会場に掲げるまでギャラリーを4ヶ所も短い間に駆け巡った、可愛い「幸運のバラ」なのです。



猪子石学区

名東区文教台 岩槻明芳

工芸(竹) 竹と老人のコラボ

老人が出会ったものは、孟宗竹という江戸時代に中国から日本に持ち込まれた太い竹でした。孟宗竹は、日本中に行き渡りましたが、今では余りよく思われず、切り倒され腐るのを待つだけの代物となってしまいました。

老人は、この竹と出会い、腐る前に何か利用できないかと考えて、竹の一輪挿しを作製したのです。

それを作ってみると、意外にいいではないか、しかしそのままでは割れたり腐ったりするのでどうするか色々試した結果人工漆に到達したのです。この漆を塗ると艶があり面白いものが出来たと思っています。

今では作製するのが楽しく、ベランダで日の光を浴びながら、うつらうつら時を忘れて没頭しています。また奥さんに時々起こされています。



猪子石学区 原 法幌

水彩画 「ディエップ城」

独学で水彩画を趣味にしており、60歳くらいから本格的に描いています。

若いころ、パティシエの修行でフランスに滞在した折、地方の教会や要塞の風景など、また名古屋近郊の虎渓山永保寺などの寺院や、バラ、カトレアなどの花を描き、2019年1月、4回目の個展を開くことが出来ました。

趣味の作品展に出品した画は、フランスノルマンディの港湾都市の丘の上の古城「ディエップ城」です。

現在はホテルになっています。

写真を元に自宅でじっくり描き上げたものです。



引山学区 児玉二三子

袋物 20点

私は手作り(縫物)が好きです。

特に、和の小物・雑貨が大好きで、いろいろ作って楽しんでいます。今回作品展のお話を頂いたころ、友人から、奥さんを亡くし着る人のなくなった着物の片づけを相談され……

作品展がお正月に近かったことから、お正月らしい作品をと思い、私なりにかたちにしてみました。

作品展を通じ、皆さんに見て頂けて、友人ともども嬉しく思っております、有難うございました。



本郷学区 大塚 茂

模型 帆船模型作製について

私が木製帆船を作り始めたのは、今から40年ほど前です。あるとき、雑誌の裏表紙にウイスキーの広告が載っていて、その中にウイスキーを飲みながら、作りかけの帆船を手に取り満足そうに眺めている写真が掲載されていました。

この広告を見て、「これはいい、自分も作ってみよう」と思ったのが最初です。早速キットを手に入れ製作に取り掛かりましたが、ノウハウは全くなく、毎日時間が取れるわけでもなく、時には数か月間手つかずで、結局完成するまでに3年ほどかかりました。

今までに、20隻ほど作製しましたが、完成したときの祝杯は格別です。



平和が丘学区 日下部美知子

色紙 うさぎ

作品展に何か出品をと言われた時は困ってしまいましたが、うさぎの押絵を作ったのを思い出して、丁度卯年だからこれでも良いかな?と参加させていただきました。

この作品は、友達が作っているのを見たとき、とてもかわいいので自分でも作ってみたいとなり教えてもらいました。いざ作ってみると細かな作業が多く大変難しかったのですが、出来上がった時はとても嬉しかったです。二人で作品を並べて見比べると、同じように作ったのに、顔とか胴とかの膨らみが違って、ビックリ。

「やっぱり自分のがいいねえ」と笑って話したことを思い出しました。

もう一度作ってみたい気持ちにもなりました。



前山学区 池上通子

手芸 帽子

私の作品が作品展の中で選ばれその写真がなごやかメイトに載るとお電話を頂きびっくりしました。

私は布を見ると「これ、バッグかな?帽子かな?」と思い、前から集めている古い本などを参考にして作り始めます。

最近では、亡き母の着物でジャケットとトートバッグと作品展に出した同じ型の帽子3点を作り、手芸教室でも、「いいね」を頂きました。

若いときから何かを作るのが好きで、孫達にも手提げ、靴袋、給食袋などを作り、孫がそれを持って学校に通うのを見るととても嬉しくなります。今回の帽子は、布を2色使ったので、裏・表の裁断を間違えたり、芯の裁断も間違えたりなど、はじめは失敗だらけ。6個作り、2人の方が、贈り物として使って下さりとても嬉しかったです。(布1枚から作るの簡単ですが、表裏2枚を合わせる場合は、裏を少し小さめに作るのですが、布の厚みでなかなか上手く合わず苦労しました)

自分が思ったより、上手くできあがると、最高の気分になりますよ。

